

## 第4回「原子力フォーラム茨城」開催報告書

開催趣旨：私たちを取り巻く昨今の世界情勢から見た安全保障に関する課題、並びに、私たちの日常生活へ及ぼす重大な影響についてご講演をいただき、茨城県民一人ひとりの問題と捉え、自ら考える機会とする。

テーマ：第4回「原子力フォーラム茨城」

ー激動する国際情勢とエネルギー安全保障について考えるー

主催：一般社団法人 原子力国民会議茨城支部

後援：大洗町商工会

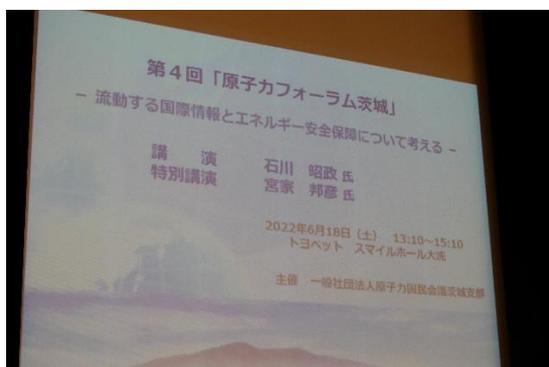
日時：令和4年6月18日(土) 13:10～15:10

場所：トヨペットスマイルホール大洗 大ホール

参加者：約300名

### ー プログラム ー

- 司会 飯島一敬 茨城支部副代表
- 13:10 主催者挨拶 田山東湖 茨城支部代表
- 13:15 来賓挨拶  
加藤明良参議院議員選挙立候補予定者  
国会議員代表
- 13:35 講演  
「ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーの混乱と日本の電力危機」  
衆議院議員・自由民主党経済産業部会部会長 石川昭政氏
- 14:00 特別講演  
「国際情勢とエネルギー安全保障」  
キャノングローバル戦略研究所研究主幹 宮家邦彦氏
- 15:05 閉会挨拶 廣井 博 茨城支部常任幹事会議長



第4回「原子力フォーラム茨城」



田山東湖主催者代表の挨拶

(司会)

定刻となりましたので、ただ今から始めたいと存じますが、その前に、舞台の方にご登壇いただく方のお名前を申し上げますので、恐れいりますが登壇願います。加藤明良参議院議員選挙立候補予定者、国会議員の先生方、首長、県議会議員、市町村議会の議長または副議長の皆さまです。よろしくお願い申し上げます。



ご来賓



主催者

開会にあたり、司会の方からのお願いがございます。コロナ感染予防のため、マスクの着用、大声を出したり、会話はご遠慮下さい。また、携帯電話のマナーモードへのご配慮と、宮家邦彦氏のご講演につきましては、著作権の観点から録音を禁止させていただきます。

今日主催する原子力国民会議は、その主旨に賛同するボランティアの方、および、会員の皆様の貴重な会費により活動を行っております。現在、会員の皆様におかれましては、今年度の会費納入期間となっております。引き続き、ご協力をお願い申し上げます。会費の納入がお済でない方は、1階ロビー受付において手続きが可能です。また、本日ご参加頂きました皆様の中で、原子力国民会議に入会を希望される方は、この機会に、是非とも、会員登録をお願い致します。ちなみに、年会費は、個人会員1口3千円以上、法人会員1口5万円以上となっております。なお、詳細につきましては、本日お配りしたプログラムをご覧頂ければ幸いです。皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

それでは、ただ今より一般社団法人原子力国民会議茨城支部主催、後援、大洗町商工会により第4回「原子力フォーラム茨城」―流動する国際情勢とエネルギー安全保障について考える―を開催いたします。私は、本日の司会を務めます、原子力国民会議茨城支部副代表の飯島です。皆様方のご協力を頂き、進行を務めてまいります。宜しくお願い致します。

それでは、主催者を代表しまして、原子力国民会議茨城支部代表 田山東湖よりご挨拶申し上げます。

## 1. 主催者挨拶（田山東湖茨城支部代表）

皆さん、こんにちは。第4回「原子力フォーラム茨城」にご参集をいただきまして誠にありがとうございます。原子力国民会議茨城支部は、皆様のご理解・ご支援により4年目に入りました。

今年2月には、設立3周年記念事業として、ジャーナリスト櫻井よしこさん、そして石川昭政衆議院議員をお迎えし、極めて時宜に叶ったご講演をいただきました。

実際、講演直後の2月24日には、ロシアのウクライナへの侵攻が現実となり、3か月を経た現在も戦闘が続いております。平和に安住してきた国民に強いショックを与えました。ロシア外務省は、6月7日、北方四島周辺での「安全操業」協定の履行停止を発表し、日ロ関係の一段の悪化が懸念されています。北朝鮮は、日本周辺へのミサイル攻撃実験を繰り返しています。これらの国際情勢がわが国へ与える影響をしっかりと見極めなければなりません。

本日、自民党の加藤明良参議院選挙候補が見えておりますが、まもなく選挙の告示がされます。今まさに、国家安全保障やエネルギー問題に関する再検討が喫緊の課題であります。

また、3月22日、政府は、東京電力と東北電力管内の東北6県と新潟県に「電力需給ひっ迫警報」を発令しました。電力使用率が100%を超える事態となったためでした。国民も節電に協力しました。

直接の原因は、3月16日の福島県沖の最大震度6強の地震の影響で、東北、東京電力管内に電力を供給する火力発電所が停止したからでした。天候不順で太陽光発電も電力を供給できませんでした。

この夏や冬には、電力会社の予備率が3%を下回る「電力需給ひっ迫」の厳しい状況になり、いつ不測の事態が起きて停電してもおかしくないと報じられています。

このような最近の厳しい国際情勢や国内におけるエネルギー危機にも対応ができるような対策はあるのかどうか。

本日のプログラムでは、地元選出の石川昭政衆議院議員から、前回に引き続き、「ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーの混乱と日本の電力危機」と題して私たちの生活に重大な影響を与える内容のご講演を予定しています。

その後の特別講演では、元外交官でTVなどでもご活躍の宮家邦彦氏に「国際情勢とエネルギー安全保障」と題して、特別講演をしていただきます。どうぞご期待ください。

ご講演により国内外の状況を改めて、我々自身が認識し、なすべき責務をしっかりと受け止めたいと思っております。

多くのご来場、あらためて感謝申し上げます、主催者代表のご挨拶といたします。誠にありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

(司会)

これより、ご来賓の皆様より、ご挨拶を頂きます。大変恐縮ではございますが、進行の関係上、お一人5分以内でお願い致します。ご協力よろしくお願ひ致します。

まず、今月22日に公示、7月10日投開票で実施されます、参議院議員選挙立候補予定者、前茨城県議会議員加藤明良様より、ご挨拶をお願い致します。なお、加藤明良様には、県議会議員時代から原子力に対しまして多大なるご支援を頂いております。



加藤明良参議院議員選挙立候補予定者

## 2. 来賓挨拶（加藤明良参議院議員選挙立候補予定者）

ただ今ご紹介いただきました、この夏の参議院選挙の自民党公認候補として、初めて参議院選挙に立候補させていただきます加藤明良でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は田山代表を中心としました茨城支部主催の「第4回原子力フォーラム茨城」がこのようなご盛会のうち開催されるなか、多くの皆さま方とともにお招きいただいていること、心から感謝申し上げます。

日ごろから茨城県で活動をする皆さま方とともに、エネルギーの大切さ、そしてこれからの安定した日本の産業を守るためのエネルギー状況とその重要性を検討していただいているご労苦に感謝申し上げますとともに、参加いただいている皆さまに心から感謝申し上げます。

この夏の参議院選挙、いよいよ日程が決まって参りました。7月10日投票日、そして6月22日、もう来週が公示となります。これからの国政を担う大変大きな参議院選挙でございます。私も岡田広先生の跡を承ってということで大変重要な選挙でございますが、これから限なく茨城選挙区を歩き、そしてこれからの国政の重要性、さらにはエネルギーの大切さをしっかり訴えていきたいと思っております。

私も3期12年、田山先生の下で、茨城県議会を務めてまいりました。そのなかで培ってまいりました多くの絆、経験を活かし、さらに茨城県のこれからの発展、日本の発展のために全力を尽くしてまいる所存であります。

本日は、額賀先生、石川先生、岡田先生、上月先生、また地元からも大洗の國井町長、鉾田から岸田市長、また市議会・町議会の先生方、多くの皆さま方にご参加をいただくなかで、こうしてエネルギーフォーラムが盛大に開催されることが本当に意義あることだと思っ

おります。

これから茨城県、そして日本の抱える諸問題のなかで本当に重要なポジションをもつこのエネルギーの政策、国際情勢が不安定化するなかで本当に重要だと思っております。特に、ロシア・ウクライナ情勢のなかで原油が高騰し、さらに物資・資材が高騰していくなかで、あらゆる産業に大きな支障がでてきております。これからの安定したベースロード電源を確保する中で、日本の豊かな産業、そして生活をどのように守っていくか、本当に重要なテーマだと思っております。

私が茨城県議会に当選した2010年というのは、民主党政権下でした。その時、私はつくづく政治の重要性、経済の豊かさの大切さを身に染みて実感いたしました。「最低でも沖縄の基地を県外へ、あわよくば国外へ」というようなキャッチフレーズの下で誕生した民主党政権、その後、新人議員を連れて中国詣に行った民主党政権のなかで、その時期に、日本近海で何が行われたか、が問題です。尖閣列島では中国の潜水艦や漁船がばんばん来るようになり、そしてまた、北方領土にはロシアのメドベージェフ大統領が初めて足を踏み入れる。その次の年は、東日本大震災。その直後、竹島には李明博大統領が上陸しました。そのようなことを考えると、日本の政治と経済が弱まった時、いつなんどき襲い掛かってくる国に囲まれているという日本の現状を、常に国家・国民が意識しなければならないと思います。中国は常に国家の体系のなかに日本を占領下におくと掲げています。その占領下というのは、実効支配ではなくて、政治の力で、中国の言いなりになる国会議員を半分以上確保すればそれだけで実効支配のようなものです。そのような状況下、あの民主党政権がもし10年続いた時の日米安保はどうなっていたか、沖縄の基地はどうなっていたか、を考えるならば、政治の安定がいかに重要か分かります。私は、戦後最大の危機があつた時期にあつたと思っております。

そのようななかで、安全保障、これからの憲法改正も含めた議論をしなければいけません。そのなかでも重要なものがエネルギーの安全保障です。現在のエネルギー自給率が12%、原子力発電所が止まってから、化石燃料を5兆円も買い足している。実質、年間購買量が18兆円と言われているこの現状で、化石燃料を焚いて、今のベースロード電源を確保しています。

先般、台湾の世界最大の半導体メーカーのTSMCが筑波に研究所を移転するという話がありましたが、その工場の立地には九州熊本を指定しています。その理由の一つが、ベースロード電源が安定していないことだそうです。これさえ安定していれば、茨城県に世界最大の半導体工場が作られたかもしれない、このような課題を真剣に議論する必要があります。

さらには水素社会の実現に向かうなかで、大洗の研究所のもつ高温ガス炉である「高温工学研究炉」に注目すべきと思います。この最新型で安全性の高い原子炉に対して、世界中の研究機関が追いつけ追い越せと、米国、中国、カザフスタンが日本に負けないように努力しています。しかし、東日本大震災以降停止しておりました。そして昨年、その安全性の高さから、ほとんど追加対策をすることなく、再稼働が原子力規制委員会から認められています。

しかも新しい厳しい安全新基準に適合しているとお墨付きです。そのため、文部科学省と経産省が予算を付けて、研究を進めることとしています。この安全性の高さは、総電源喪失をした時には勝手に熱源が落ちる、水を使わないでヘリウムで冷却をするということで、地中でも山奥でも使える。さらには、付属設備をつければ、水から水素を無尽蔵に作れる、そのように将来性があるのがこのガス炉であり、これは大洗だけにあるのです。もしかしたら、水素社会の実現のなかで、この茨城県が、大洗が、将来の水素社会の中心地として、活躍できる、そのような地域資源であることを、これからも地元の皆さまにしっかり声をあげていただきたいと思っています。

県民、市民、国民の安全が第一であります。さらに安全性の高い、これからの供給可能な持続可能な、しっかりしたベースロード電源を確保するなかで、将来の日本の豊かさを担っていただく、その可能性を秘めた大洗です。これからも是非皆さま方と議論を深めるなかで、これからの原子力のさらなる利活用について真剣に取り組んでいただきたいと心から願っています。

私も、7月10日、しっかりと勝利の二文字を勝ち取って、田山先生、そして皆さま方のお役に立てるよう働いていきたいと思っております。さらに、比例区には、自民党の組織候補の優秀な方がたくさんいます。公明党の竹内候補もおります。是非とも比例代表区の皆さま方にもご支援を賜りながら、しっかり選挙戦を勝ち抜いてまいりたいと存じます。そしてまた、12月には田山先生の再挑戦もございます。是非とも皆さま方の総力を結集して、皆さま方で押し上げていただくよう、また、皆さま方のさらなるご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。本日は、貴重なお時間ありがとうございました。よろしく申し上げます。

(司会)

加藤明良様ありがとうございました。加藤さまは、次のご予定がありますので、ここでご退席となります。皆様、盛大な拍手でお見送りをお願い致します。

続きまして、国会からは、額賀福志郎衆議院議員、石川昭政衆議院議員、岡田広参議院議員、上月良祐参議院議員の皆様にご出席を頂いております。まず、最初に自由民主党総合エネルギー戦略調査会会長、衆議院議員額賀福志郎さまお願い致します。



額賀福志郎衆議院議員

### 3. 来賓挨拶（額賀福志郎衆議院議員）

ただ今ご紹介いただきました衆議院議員額賀福志郎です。今、石川先生、岡田先生、上月先生から、時間の都合があるから、お前代表して挨拶をするようにとの話がありました。よろしいでしょうか？

私は自民党エネルギー戦略調査会の会長を務めており、石川先生は自民党の経済産業部会長であり、これまで連携しながら、先般、我が国のエネルギー政策、ガソリン価格とか燃料価格高騰に伴う激変緩和措置などを作って、岸田総理の下に、党としての提言を出したことです。私たちはともに、このウクライナ侵略戦争に伴う様々な要因に対して、どのように国民を守り、生活・産業基盤を安定的に維持し発展させていくかについて検討を進め、この1月から10数回議論をしてきました。同時に鉄鋼業界、石油産業調査会とかあらゆる業界からヒアリングを行い、日本の企業を守り、国民生活や雇用を守る方策を議論してきたところです。

そのようななかで我々が感じている最も大事な点は、ウクライナ戦争によりエネルギーの尊さや有難さを改めて国民全体が認識したことではないかと思います。従って、食料自給率もそうですが、資源のない日本がどうして生活を守り、経済を安定的に発展させていくかを考えると、エネルギーがなければ何にもできない、と結論に至ります。この夏、電力供給が心配されており、電力がストップしたらどうするか、を考えて、皆さん方に電力の節約をお願いすることを一つの方針にしていますが、暑い中お年寄りや子供たちがクーラーを止めて健康を害するようなことがあってはならないことも考慮して、万全のエネルギー体制を作っていくことが大事だと思います。そういうなかで、こういう困難な時をどのような活用していくか、これが今後の日本の成長を支えることになると思います。1971-2年に石油ショックがあり、日本は省エネ政策を断行し、あらゆる面で省エネ政策が新しい生活用具、電気製品、車も改良に改良を重ね、世界一の電化製品と自動車を作りました。このような経験を活かしながら、この困難を活用して、どのように産業の競争力強化に結びつけていくか、このことが日本人と日本の政治にとって最大の課題と思っています。

一つはエネルギーの自給率を高めていかなければなりません。そのためには、再生エネルギー、つまり太陽光、そして鹿島灘や北海道・九州沖で開発を進める洋上風力発電を再生エネルギーの根幹として、むこう10年間、20年間しっかりと安定電源として最大限の活用していくことが重要だと思います。

もう一つは、安定的な供給ができ、経済性も比較的安価で、同時に脱炭素である原子力発電に依存していかなければならないと考えております。原子力規制委員会の安全性を堅持しながら、原子力発電所の再稼働をする、と同時に、米国等の先進国と技術提携しながら、原子力の小型炉、大洗で研究している高温ガス炉、高速炉などを、新しいエネルギー・準国産として位置づけをして、エネルギー政策について国家としての方針を作り、最大限の活用をしていくことを考えていきたいと思っています。

その上で、石炭火力等の分野でCO<sub>2</sub>の発生を少なくしていく、そして安定したエネルギー

一供給をしていくことで、国民生活と産業の構造転換を図ることを目指していきたいと思います。その中で、国家安全保障の原点、どの国におびやかされようがなんであろうが、自らの生活を守るエネルギー源をきちんとしていくと同時に、米国、EU、韓国、インド、オーストラリア等と連携して、しっかりと国を守っていく、そのようなエネルギー安全保障、そして国家の安全保障をきちんとしていくことが自民党の考え方です。共産党や立憲民主党ができるはずがありません。

今度の参議院の選挙においても、立候補声明をされた加藤明良候補に絶大なるご支援をいただくことを心からお願い申し上げます。また、暮れには、県議会選挙がありますので、田山先生にもご支援をいただくことを心からお願い申し上げ、私の挨拶と参議院選挙に対するお願いの言葉にかえたいと思います。国会議員を代表して挨拶をさせていただきました。ありがとうございました。

(司会)

額賀福志郎さまありがとうございました。国会議員を代表してご挨拶をいただきました。石川昭政衆議院議員には次のご講演の中でご挨拶をお願いします。また、その他のご出席の皆さまについては、紹介だけにさせていただきます。

参議院議員岡田広議員様。参議院議員上月良祐議員様。開催地の首長であります國井豊大洗町長。岸田一夫銚田市長。茨城県議会からは、磯崎達也様。

各市町村議会からも多くの皆様にご出席を頂いております。時間の関係上、議長の皆様をご紹介いたします。茨城県町村議長会会長・大洗町議会議長飯田英樹様。那珂市議会議長萩谷俊行様、銚田市議会副議長根寄眞様。ご紹介漏れがございますか、・・・東海村議会副議長吉田様。水戸市議会議員小泉様。ご紹介失礼いたしました。

なお、国会議員岡田広様、茨城県議会議員下路健次郎様からメッセージが届いておりますので、ロビーに掲示をしております。

以上、ご来賓の皆さま方の紹介でした。それでは、ご来賓の皆さま方に拍手をお願い致します。ありがとうございました。恐れ入りますが、ご来賓の皆さま、主催者は、お席にお戻りをお願い致します。石川議員は、その場にてお待ち頂きたいと存じます。

(司会)

それではただ今より、講演に移らせて頂きます。先ず、自由民主党経済産業部会長・衆議院議員石川昭政氏によります「ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーの混乱と日本の電力危機」について、ご講演をお願い致します。石川議員のご経歴につきましては、プログラムに掲載してございますので、そちらをご参照頂ければと存じます。それでは石川議員宜しくお願い致します。



石川昭政衆議院議員

#### 4. 講演（石川昭政衆議院議員）

第4回「原子力フォーラム茨城」の開催、誠におめでとうございます。第3回に引き続きまして講師にお招きいただき誠にありがとうございます。今日は、高校生の皆さんもお越しをいただいております。そして、地元代表であります田山東湖先生には、公私ともに、茨城県の原子力の適切な利用に対して引っ張っていただいていること、心より感謝申し上げます。また、各自治体の首長様、そして議員の皆さまにも原子力に対してさまざまな形で関わっていただきまして、市民の不安や不満を行政に届け、国に届けていただいていること、この場をお借りして重ねてお礼申し上げます。

今回宮家邦彦先生の講演に先立ちまして、私からウクライナ侵略を受けまして、国がどう動いたか、そしてどうしていくべきか、というお話をさせていただきます。2時まで時間をいただいておりますので、簡単ですが、いろいろなお話をさせていただきます。

前回、この場で第3回のフォーラムが開催されたのが、2月19日と記憶しています。その時、私はロシアがウクライナの北部・東部に軍を集めて軍事演習をしている話をしました。その後、おそらく偽旗作戦を行いながら、じわじわと国境を越えてくるのではないかと話しました。その5日後、2月24日、ロシア軍は国境を越えて、最初キエフ、今はキーウといいますが、首都に向けて進軍しました。ところが、ウクライナ軍は必死の抵抗によって100日間なんとかロシアに対して押し返しています。

こんな状況が続いていますが、ではこの100日間に何があったか、ですが、数字で申し上げますとロシアは13兆円の利益を得ています。ロシアからヨーロッパ、あるいは日本もそうですが、天然ガスや石油を売っています。1日1300億円、100日間で13兆円になりますが、戦時下でもロシアは稼いでいます。それは、ヨーロッパが使う天然ガスの4割はロシアからパイプラインを通して買っている、このことは前回も話しました。そのパイプラインをうまく生かして、絞ったり、広げたりしながらヨーロッパにゆさぶりをかけています。

今ロシアは経済制裁を受けていますので、なんとかそれを抜け駆けしてもらえる国が出てこないか、いろいろな駆け引きをしています。なので停戦交渉をやってきましたが、ロシアが第一番にあげるのは、「早く経済制裁を解け、解かないと停戦はない」と言ってきますから、かなり苦しいと思います。しかし、お隣の北朝鮮を見て下さい、ここ2、30年ずっと経

済制裁を受けていますが、なんとか国の形を保っています。ミサイルやロケットを開発して、昨日のニュースでは、核兵器を 20 発開発して持っている。従って、経済制裁だけでロシアを倒せるか、はほぼ不可能と思います。

先ほど申し上げたように、日銭を稼いでいますから、ロシアはそれを軍事費に使いながらウクライナを侵略していく。ここを何とか止めるにはどうしたらいいか、G7 と連携しながら日本も経済制裁をやっていく、というのが今の構図になっています。

私は現在、額賀先生の下で経済産業部会長ですが、様々な経済制裁について取り組んでいます。日本もサハリン 1・2、昔で言う樺太、稚内から 43 キロしか離れていない。ここ大洗から 43 キロというのだいたい日立です。私は今日は日立からきたわけですが、だいたい 1 時間で来ました。稚内とサハリンはそれくらいの距離しか離れていないのです。当時、サハリン 1・2 を開発しようとした時、ロシアはパイプラインでつなごうと、その方が便利であるし日本にとってもいいでしょうと持ち掛けてきたそうです。

安部元総理が総理大臣を辞めた後いろいろ話を聞きましたが、安倍政権の際にもそういう話が水面下であったようです。そこはさすが安部前総理は外交的にも安全保障的にも問題があると判断され、何遍も断ったそうです。もし安倍政権でなかったら、おそらくパイプラインで稚内を通じて北海道から本州までつながり、ロシアからのガスを使っていたと思います。そのくらいのことをロシアは考え、日本を取り込み、そして経済的な交流を深め、北方領土の返還運動を揺さぶっていかう、そのくらいのことをプーチン氏は考えたと思います。安倍総理は断じていけないということでその話を遮断した。

しかし、LNG に変換してタンカーで日本にいま来ています。広島ガスは、岸田総理の地元ですが、使う半分はサハリン 2 からのガスです。東邦ガスや東北電力、九州電力も一定割合、1 割から 2 割はサハリン 1・2 から天然ガスをタンカーで入れています。ヨーロッパもロシアの天然ガス、原油、石炭を止めるかどうか極めて難しい問題になっています。現時点では、なるべくこれから使うのをやめましょうという話になっていますが、今日明日すぐに止めるわけにはなかなかいかない。それをロシアは見越して、ヨーロッパに対する天然ガスのパイプラインを今少しづつ蛇口を締めています。いろんな理由を言って、天然ガスを絞っていかうとしています。

ではその余った天然ガスをどこに売っているか、どうも中国とかインドが買っているのではないかと、言われています。もっと言えば、そういう国が天然ガスや原油を精製してヨーロッパに転売しているとも言われています。いろんなルートでエネルギーを巡る外交が水面下で動いています。

日本にとってサハリン 1・2 はなるべく保持したい、と思っています。売ることは簡単ですが、しかし売ってしまうと、昔イランで起きたことと同じようになるとの危惧があります。日本はイランにアザデガン油田という権益をもっていたのですが、米国がイランを経済制裁するため、日本は権益を手放せと言われて無償で手放した。そしてその時出てきたのが中

国で、二束三文で買っていった。ということで日本は非常に悔しい思いをした。権益は保持していきたいと考えています。

ただ問題はサハリン1・2にいた米国のエクソンモービル、英国のシェルという石油会社・天然ガス会社のオペレータやエンジニアが引き上げた。その結果、機械の整備や不具合があった場合の整備ができないので、これがいつ止まるか、分からないという状況にあるようです。事前にそれを見越して、機器の部品は経済制裁の前に在庫を送っておいたそうなのでしばらくは大丈夫かもしれませんが、このままだといつ止まるか分からない状況のようです。

ではもし止まった場合どうなるか、広島ガスやその他の電力会社は、供給が来なくなるので、一般の消費者が困るわけです。どうするか、今いろんなところに売りにでているものを買うのですが、今天然ガスがものすごく高いのです。もし、ロシアの天然ガスを諦めて他で買うとすると1兆円位余計にお金がかかると言われています。これが何年かかると本当に大変なことになります。従って、我々は安全を確認できた原子力発電所は早く動かしていこう、ということが国の政策になっています。

7月から参議院選挙が始まりますが、私、経済産業部会長として参議院選挙の公約を担当しました。高市政調会長の下で、経済産業分野の公約を書いたのですが、こういう時期ですので、原子力発電所は最大限使えるものは使っていきましょうという文言を入れました。今までは、原子力は将来的に減らしていこうという文章になっていましたが、今回はそういうことを言っていられない状況に変わりました。できるだけ使える安全なものは最大限使っていきましょう、という様に今回の参議院の公約に明記しています。それほど綱渡りの状況です。

もし、サハリン1・2のガスが入らなくなったら、今年の夏、それから今年の冬は需給がマイナス、全然足りないのは明らかになっていますので、政府もエネルギーの危機宣言などを出して、早く緊急的に動かせるものは動かす、原子力も再稼働していこう、と考えています。

先ほど額賀先生も少しおっしゃいましたが、大洗には、ものすごく先を見た研究開発炉があります。高温ガス炉、英語ではHTTRです。それと常陽、もんじゅの一步手前の実験炉。すばらしい技術はあるのですが、まだ日本では使おうという電力会社がでてきていません。電気事業連合会の会長会社が九州電力なのですが、こんど九州電力に大洗のHTTRと常陽をぜひ見て下さいとお願いしたところ、二つ返事で是非見せて下さい、ということで、大洗に呼んで新しい技術を日本の電力会社に広げていきたいと考えています。

もう一つ、電力やエネルギーの安定供給の上で重要なのがアメリカです。アメリカは世界一の産油国になっています。先日、岸田総理も首脳会談をしまして、萩生田経産大臣もアメリカに行ってきましたが、シェールガスをもっと増産してください、今、ヨーロッパもアジアも困っています、と言ってもらいました。ロシアからエネルギーを買わないという約束

を果たすためには、是非アメリカのシェールガスを増産して下さいとお願いしています。その結果、アメリカもシェールガスの増産を始めています。

但し、天然ガスを凍らせて LNG に転換する施設がそれほど多くないので、そこがボトルネックになっています。また、LNG をタンカーに載せて世界に輸出するのですが、その数が少なく、なかなか大量には増強できない、ボトルネックになってきています。

これも今後何年かして増強していかねばなりません、そうやりながら、脱炭素化に向けて、水素、アンモニアなどを利用していく。また、木質ペレットも最近言われていますが、国内で使われない木材がたくさんあり、間伐した木材を小さなチップにして固めて燃やすと、石炭の 7 割位の熱がでるので、石炭に置き換えていくというのも有望でないかと思っています。

ほかにも、車も電気自動車だけではなく、電気以外にも合成燃料、合成ガソリン、水素で走る車、CO<sub>2</sub> と水素を使って合成燃料を使った車などいろんな技術を国が支援して研究開発しています。昨日、岸田総理がトヨタ自動車の工場を視察しましたが、トヨタグループも全社をあげて技術開発に取り組んでいますので、それを国が予算をたくさんつけて、推進しています。おそらく 5 年 10 年先には、ガソリンから燃料自動車や電気自動車に世界中で広がっていくものと思います。

時間が参りましたので、簡単にまとめますと、この直近のエネルギー不足に対しては、やはり安全な原子力発電の再稼働、そして 5 年 10 年先に向かいますと、水素、アンモニア、木質ペレット、合成燃料など、さまざまな脱炭素化のエネルギーが日本社会に広がりますように、皆さんとがんばっていきますので、どうぞご理解いただきますようお願いいたします、私の講演とさせていただきます。本日は、皆さまありがとうございました。

(司会)

石川昭政衆議院議員ありがとうございました。皆様、石川議員に盛大な拍手をお願い致します。(拍手) それでは最後の特別講演の準備ため、少し時間をいただきたいと思います。

(司会)

大変お待たせをいたしました。テレビ、ラジオなどでご活躍中の、キャノングローバル戦略研究所研究主幹 宮家邦彦様によります「国際情勢と日本のエネルギー安全保障」に関してのご講演をお願い致します。宮家様のご経歴などにつきましては、私からご紹介するまでもないと思います。プログラムにご経歴を掲載してございます。ご参照ください。なお、録音は、ご遠慮をお願い致します。それでは、宮家様、宜しくお願い致します。



宮家邦彦キャノングローバル戦略研究所研究主幹

#### 5. 特別講演（宮家邦彦キャノングローバル戦略研究所研究主幹）（要旨）

世の中にはパワーとマネーがあり、ある地域に「力の真空」ができた時にパワーが動く、と考えるのが私の地政学だ。地政学は経済とは違う。中国の国防部長が「いかなる犠牲を払っても最後まで戦う」と言ったが、これは経済合理性ではない。経済合理性は、政治的な合理性、戦略的な合理性と違うので、これを使い分けることが重要だと考える。

ウクライナ戦争の最重要な教訓として、「自ら血を流さなければ同盟国は助けに来ない」ことを日本人は肝に銘じるべきだ。英国・米国の海洋国家は、常にバランスを考え、ロシアが出てきたらたたく。旧ソ連邦と旧ワルシャワ条約機構に入っていた小さな国々は、ウクライナの次は自国だからロシアに対して厳しい。仏国やドイツは、ロシアとの利害関係からいつ手を打つべきか考えている。このように NATO（北大西洋条約機構）には微妙な温度差があり、当分混乱が続くだろう。

国際政治についての私見は、「歴史は繰り返さないが韻を踏む」であり、1930年代の日本と2020年代の中国を比較すると実は韻を踏んでいると考えている。中国は何故海に進出したいか？それは国の脅威は海から来るから。大陸国家でも小笠原からグアム島を抜けて、パプアニューギニアまでのシーレーン（第二列島線）の占有を狙っている。貿易立国の日本は、第二列島線をとられないように絶対に阻止しなければいけない。中国は「力の真空」を利用し、「戦わずして勝」戦略だから、米国が台湾に関心を失う時、日本が尖閣に関心を失う時を待っている。日本は、中国の弱点を見つけ、対抗する戦略を練り、抑止しなければいけない。

最後にエネルギーについて一言。普通の国は原子力をやっているのに日本はゼロに近い。エネルギーと電力の自給を確保するために、原子力の問題をタブー視せず、多くの国民の理解を得るようにすべきである。

（文責：一般社団法人原子力国民会議茨城支部）

(司会)

宮家様ありがとうございました。皆様、宮家邦彦様に感謝を込めて盛大な拍手をお願い致します。ありがとうございました。宮家様のご退席です。

なお、今回のご講演などについての「アンケート」用紙、水色の用紙に、ご記入の上、出口で回収させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、原子力国民会議茨城支部常任幹事会議長廣井博より閉会のご挨拶を申し上げます。



会場風景



廣井博茨城支部常任幹事会議長

## 6. 閉会挨拶（廣井博茨城支部常任幹事会議長）

皆さん、長時間にわたりこのフォーラムにご参加していただき、大変ありがとうございました。今日は、大変お忙しい中、国政を担当されている国会議員の先生4名もお見えになりましたし、議長さん、それから町長さん、市長さんにもお見えいただきました。

今日のテーマは非常に難しいテーマだったと私自身思っています。日ごろあまり考えたくないことを、タブー視していることを、考えざるを得ないと、突き付けられたように思います。ウクライナの問題、毎日テレビで報道されています。学校が爆撃されたり、病院がやられたり、これが現実にあります。そして、我々日本はどうしたらいいんだろう。エネルギーの問題、それから安全保障の問題、本当に考えにくい問題なんです。我々国民会議としては皆さんと一緒に考えていく場を今後も提供したいと思っています。

そういう意味で、アンケートのなかに皆さんのご希望など書き加えていただければ、国民会議としてはそれらを議論できるような場を設定していきたいと思っています。今後も皆さんのお力をお借りして、原子力国民会議茨城支部として、がんばっていきたく思います。どうぞお力を貸していただけますようお願い申し上げます。

本日はこれでお終いでございます。ありがとうございました。

(司会)

以上を持ちまして、第4回「原子力フォーラム茨城」を閉会と致します。ご協力ありがとうございました。なお、コロナ感染拡大防止の観点から、ご退出につきましては、係の者の誘導により、お願い致します。

まず、ご来賓の皆さまからのご退場となりますので、ご協力のほどよろしく、お願いいたします。お気をつけてお帰り下さい。

以上